

＜北の便りー1, 459ー＞2017. 12. 11版

3360地区チェンライ RC パスト会長便り

半年後、先生を訪ねます 先週に、昨年から里親支援を始めたティティカムが私を学校に訪ねた。彼女はその制度で2年制の準看護学校に進んだ。彼女の母親は3人娘を女手一つで育てる。長女の彼女は中学卒で終わる覚悟でいた。私との出会いで学ぶ機会を得たのだ。私のアカ族子供支援を支えるのが「アカ族子供就学基金」(以降「基金」)だ。「基金」からの今年度後期里親支援金支給を13日に控えている。「はらだ先生、今通う学校が私をバンコクの看護大学に編入推薦してくれました。先生、助けてください」と彼女は書類を嬉しそうに見せた。私はアカ族子供に「単に母国語・タイ語の習得だけに留まってはいけない。それを機に更に高度に、他人のために役に立ってこそ識字向上だ」と常日頃諭す。彼女はそのお手本だ。私から早目に里親支援金を手にした彼女は「はらだ先生、半年後に帰省します。必ず報告に伺います」の言葉を残し、バンコクに向かって行った。